

(63) 3327	えさし	(35) 2035	平泉	(46) 2508	大原	(72) 2309	遠野	(62) 2524
(69) 2228	金ヶ崎	(42) 2205	花泉	(82) 5200	興田	(34) 5665	上郷	(65) 2848
(72) 3135	前沢	(56) 8222	川崎弥栄	(34) 9300	千厩	(52) 2053	宮守	(67) 2213
(62) 7250	一関	(23) 3323	東山	(47) 2370	室根	(64) 3290	鱒沢	(66) 2129
(24) 1156	山目	(25) 5776	摺沢	(75) 2704	藤沢	(63) 2616		

絶滅危惧植物イワテヤマナシ

実れ賢治作品の果実

宮沢賢治の童話「やまなし」で知られ、絶滅が危惧されるイワテヤマナシを守りたい。奥州市水沢真城のステキハウス経営菊地憲野さん(73)ら地元有志と、野生のナシの保存活動に取り組む神戸大学大学院農学研究科付属食資源教育研究センターの片山寛則准教授(56)は、樹齢10年ほどのイワテヤマナシの台木7本を菊地さん宅付近に植えた。3〜5年ほどで実を結ぶ見込みで、賢治が愛した貴重な地域資源として発信していく。

奥州・菊地憲野さんら有志

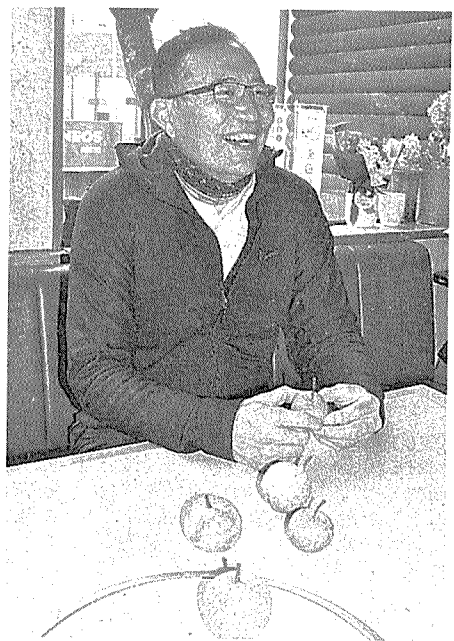


イワテヤマナシの台木に土をかぶせ、成長を願う菊地憲野さん(左)と片山寛則准教授

復活願い台木植栽 豊かな香りへ 魅力発信

作業したのは12日、雨が降る中、有志約10人がシヨベルカーやシャベルで穴を掘った。同大学院で育てられた高さ1.5mほどの台木に、健やかな成長を願って土をかぶせた。イワテヤマナシは本県を介していることから栽培中心とした北上山系に自生する野生のナシ。小さい実と豊かな香りが特徴だ。冷害に強く保存食にもなってきたが、近年は土地開発に伴い伐採が進んだ。絶滅が危ぶまれるほど減り、環境省のレッドリストに掲載されている。菊地さんは、童話「やまなし」で「いい匂い」と紹介されていることから栽培に興味を持った。昨年は有志と共に、片山准教授から提供されたイワテヤマナシの枝を、自宅敷地内にある別種のナシの木に接ぎ木した。

菊地さんは「無事に実を結んだら、『やまなし』と絡めた商品化などを進め、魅力発信につなげたい」と前を向く。



活動に協力・片山寛則准教授(神戸大学大学院)

地域活性化につなげて

一問一答

野生のナシの研究に取り組む片山寛則准教授に、イワテヤマナシへの思いや今後の展望などを聞いた。

(聞き手は奥州支局・大橋秀喜)

イワテヤマナシの研究を始めた理由は、

「イワテヤマナシのように香りが強い野生のナシはとても貴重だ。これを活用し、品種改良に取り組みたい」

イワテヤマナシを取り組む理由は、

「奥州市で栽培を始めることのメリットは、

「岩手の中では比較的温暖で、霜が降りにくい点だ。花が咲く時に霜が降りると、実がつかなくなってしまう」

「菊地憲野さんらの取り組みに期待することは、

「香りが良いナシとして長く愛されてきた文化を復活させ、地域活性化につなげてほしい」